



お盆の迎え方

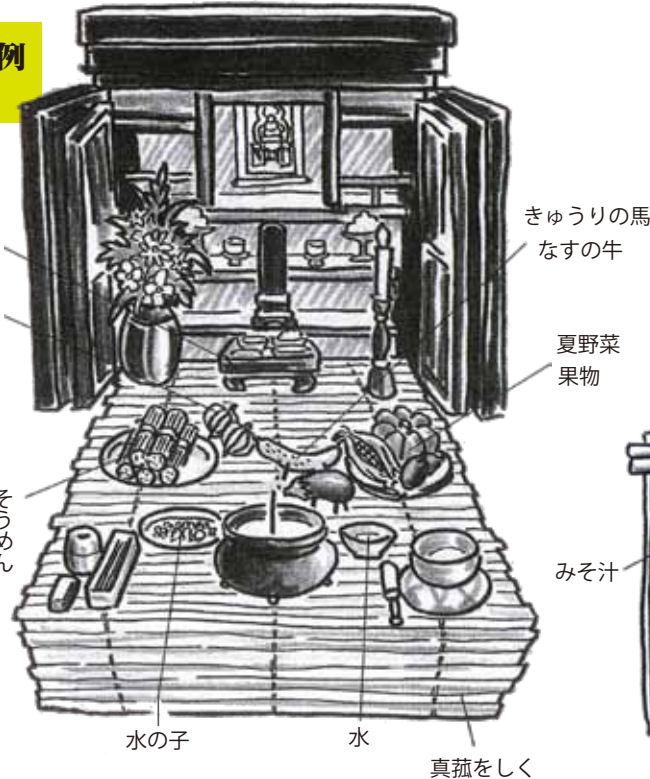
お盆は、お彼岸と並んで昔から行われている大切な仏教行事の一つで、またお正月とともに一年の大切な区切り。ご先祖様が里帰りをし、この世に生きる私たちと大切な亡き人とが触れ合う事の出来る大切な行事です。久しぶりに故郷に集まった家族や親族と共に、生死を越えた「つながり」の尊さを再確認しながら、楽しい語らいの時間を過ごしましょう。

迎え方は、地域や各家庭によって様々ですが、ここでは、お盆の迎え方の一例をご紹介します。

精霊棚の例 (盆棚)

お膳 (右絵参照)

ほおずきなど



きゅうりの馬
なすの牛

夏野菜
果物

そうめん

水の子

水

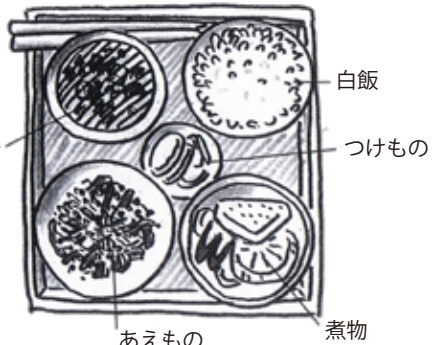
真菰をしく

みそ汁

あえもの

煮物

お膳の例



白飯

つけもの

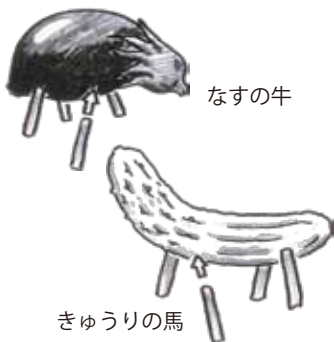
◆お盆の準備ーお盆が近づいてきたら、まずお仏壇の掃除をしましょう。お仏壇はご本尊様とご先祖様をお祀りする大切な場所ですので心をこめて清掃します。

その際、香炉の灰もふるいにかけて、古い線香の残りなども丹念に取り除きましょう。

う。お墓の清掃も行います。家族みんなで墓に出かけ、草むしり、墓石の洗浄などをしましょう。

◆精霊棚 (盆棚)ー精霊棚

の祀り方は地方によって異なりますが、上絵は一例です。期間中は、お膳の他、そうめんや夏野菜、また「水の子」といわれる生米に茄子、胡瓜などサイの目に切つて混ぜたものも供えます。真菰 (まこも) のコザを敷くのは、帰って来たご先祖様がその上に寝ていただく為です。地域、家庭によってお供え物も異なりますが、慣習に従つておもてなしの心で準備しましょう。



なすの牛

きゅうりの馬

馬牛には「キュウリの馬に乗って早く来て、ナスの牛でゆっくり戻ってくださいね」という願いが込められているそうです。

◆迎え火・送り火ー十三

日 (地域によって十二日) は「迎え盆」といい、夕刻にご先祖様をお迎えします。まず門口で「迎え火」

を焚き、ご先祖の御霊をお迎えします。地域によっては菩提寺とお墓にお参りし、ご先祖様をご案内する気持ちで提灯に明かり (迎え火) を灯し、家路につきます。家に着いたら迎え火を精霊棚のお灯明に移し、全員でお参りします。十六日 (地域によって十五日) は、お迎えしたご先祖様をお見送りする「送り盆」の日です。この日全国では「送り火」の意味で灯籠流しなどが行われます。また京都の文字なども、有名な送り火の一つです。

◆新盆ー四十九日の忌明け

後、初めて迎えるお盆を新盆といい、供養を行います。新盆には故人の好物をそなえたり、道に迷う事のないよう目印として、家紋の入った白提灯をとす風習もあります。

万松寺駐車場&万松寺パーキングがさらに便利に!

駐車場精算機で
クレジットカードが
使用できます!



カードを入れるだけサイン不要の簡単精算

楽Edy タッチするだけで簡単精算!
電子マネー「楽Edy」も使えます!

★24時間最大 (平日: 1,100円 土日祝: 1,500円)
※2004年4/1より改定しました。
●昼間 (8:00 ~ 20:00) 100円/15分 【お問合せ】
●夜間 (20:00 ~ 8:00) 50円/30分 052-251-4543

■旧券の交換は管理事務所 (万松寺ビル北館1階) または万松寺境内の受処へ。 (9時~18時)

ご祈祷・供養は
萬松寺

◆8月24日「山門施食会」

◆毎月28日はお不動さんの縁日

午後六時~、境内にて織田信長公ゆかりの由緒を伝える
「身代り餅つき」が行われ、参拝客の方々に振舞われます。

からくり人形『信長』は午前10時~2時間おきに毎日5回上演しております。雨天強風の際は上演されません。

- ◆十一面観世音菩薩: 先祖供養、水子供養
- ◆身代り不動明王: 厄除け、無病息災、身体健全 病気平癒、災難消除
- ◆白雪稲荷: 商売繁盛、家内安全 各種ご祈祷を受け付けております。ご祈祷の受付は午前10時~4時半まで。

亀嶽林萬松寺

お問合せ TEL 052-262-0735

◎なるほど仏教

うらぼんえ
孟蘭盆会と施食会の話

先祖供養の行事の心と教え

孟蘭盆会（うらぼんえ）

はお盆の正式名称で、ま

た施食会（せじきえ）も

多くはお盆の時期に行わ

れる仏教行事です。曹洞

宗においては盆月に孟蘭

盆会を含んだ施食会「孟

蘭盆会施食会」を行なう

事が定着していますが、

この二つの行事は別の行

事です。そして由来も異

なりますが、お釈迦様が

悩み苦しんでいる弟子を

救っているという点で共

通し、主旨も同じ先祖の

供養ですので、混同され

がちです。しかし各々の

意味を知ると、それぞれ

の行事の大切さ、その迎

え方がより一層わかるの

ではないでしょうか。

母の救済に由来する

孟蘭盆会

孟蘭盆会はサンスクリット

語の「ウランバナ」の音訳で

「逆さ吊りにされた苦しみ」

という意味があり、餓鬼地

獄の苦しみを意味します。

生前に贅沢をし、強欲で嫉

妬深い人間が餓鬼地獄に落

ち、餓鬼になると言われて

いますが、お盆の物語の人物である目連尊者（モツガラナ）の母も餓鬼地獄に落ちていました。目連様は苦しむ母を助けようと懸命に食べ物を与え続けますが母は救われません。悩んだ目連様は、どうすれば救われるか、お釈迦様に教えを乞いました。その教えは、自分の母だけに与えるのではなく「大勢の僧侶を招き多くの供物をするように」というものでした。そして目連様はその教えに従いました。すると母は餓鬼の苦しみから救われたといいます。お盆の目的

は先祖供養ですが、その心、すなわちお釈迦様の説かれているのは、慈悲の心、布施の精神なのでしょう。

また、この目連物語は父母への孝養も説いています。お盆には多くの方が実家に里帰りし、父母との面会をします。両親に元氣な顔を見せるのも立派な親孝行ではないでしょうか。孟蘭盆会の意味をよくかみしめて、家族そろってお盆を迎え、先祖の供養をしたいものです。

施食（施餓鬼）会

霊への施し

施食（施餓鬼）会は、弟子の阿難尊者（アーナンダ）が餓鬼に「三日の後に命が付き餓鬼になる」と言われ、悩み、お釈迦様の教えに救われた物語に由来します。阿難様は教えに従い、経文を唱えながら餓鬼に食べ物を与えた所、八十歳余りという長寿を得たといわれます。そんな物語に由来する施食会は、我が家の先祖だけ

でなく、三界万霊（さんがいばんれい）・有縁・無縁の霊に飲食を施し供養をします。この法会は、特定の先祖を供養するだけにとどまらず、供養する人のいない無縁の仏さまや、子孫の途絶えた仏様も供養するので、また三界万霊の三界とは仏教の世界観で、欲界（欲望の世界）、色界（欲望を離れた世界）、無色界（高度な精神のみが存在する世界）にある、有縁、無縁を含むあらゆる霊です。

施食会では「水の子」をお供えし、甘露門（かんろもん）というお経を読みます。このお経を読み上げる事によって「水の子」は餓鬼の食事になります。水の子は生米に茄子や胡瓜などをサイの目に切つてまぜたもので、簡単に作事が出来ます。火は通しません。



水の子



また阿難物語に出てくる餓鬼はあの世にいる餓鬼ですが、餓鬼はあの世だけに存在ではありません。欲深き現生の人間の姿もまた餓鬼です。施食会はむさぼりの心を戒め、分かち合う心の大切さをも説いているとも言えるでしょう。

施食会では檀信徒が菩提寺に集まり、住職の読経による法会が営まれます。亡き人は餓鬼の苦しみから、安らぎの世界に導かれるとされますので、毎年行つていただくのがいいですが、とりわけ新盆（表参照）には施食会供養をしたいものです。

『萬松寺お盆の行事予定』

◆迎え火・八月十二日（火）

◆送り火・八月十五日（金）

ともにイベントスペースにて

午後六時より。

◆山門大施食会・八月二十四

日（日）本堂にて午後一時～

午後三時。

※詳しくは萬松寺受処までお

問い合わせください